

はじめに

Hondaは、世の中の急激な変化の中で「存在を期待される企業」であり続けるために、将来の姿をふまえ、2030年のありたき姿を「2030年ビジョン」としてまとめました。その環境領域では「カーボンフリー社会の実現をリードする存在となること」を目指し、2020年までに二輪車・四輪車・パワープロダクツのCO₂排出量原単位 (g/km) を2000年比で30%低減する「2020年製品CO₂排出量原単位低減目標」を策定し、目標達成の施策の1つとして、製品の電動化を位置づけています。

Hondaは過去より、環境問題に取り組んできました。

1970年代には一酸化炭素・炭化水素・窒素酸化物の排出を減らした低公害のCVCCエンジンを開発し、当時世界で最も厳しい自動車の排出ガス規制といわれた米国マスキー法に世界で初めて適合しました。

二輪車では、ガソリンエンジンの全面4ストローク化、FIによるエンジンの制御技術、キャタライザーの装着など、低燃費化と排出ガスのクリーン化を推進してきました。

電動二輪車では、1994年に「CUV-ES」を官公庁や地方自治体などにリース販売、2010年に「EV-neo」を配達業務を行う企業を中心にリース販売するなど、国内50ccクラスの市場に向けた展開を図ってきました。

開発のねらい

今回Hondaとして3代目となる電動二輪車の開発にあたっては、世界の、より多くの人々にHondaの電動二輪車を体験して頂くことを目指しました。

開発コンセプト

EV体験を広げるe-Comfort Saloon

この実現に向けて、以下の目標を設定しました。

- ・日本や東南アジアなどの交通/使用環境に適した性能を持つこと
- ・Hondaの代表的スクーターとして成長したPCXの魅力を受け継ぐこと

PCXは、このクラスのスクーターとして、取り回しのしやすい車体サイズとゆったりとしたライディングポジションを両立したワンランク上の上質感、そして走る楽しさなどを特徴とし、日本や東南アジアを中心に世界各国の人々に高い支持を頂いています。このPCXに電動パワーユニットを搭載することで、上市国の多くの人々に受け入れられると考えました。

PCX ELECTRICは、PCXの車体サイズに納まるコンパクトなEVシステム、四輪などとの混合交通環境での過不足のない走行性能、2種類の充電方法を可能としたHonda Mobile Power Pack (以下モバイルパワーパック) など、多くの人々に受け入れていただきやすい仕様としました。

環境負荷に対する関心が一層高まる中、その社会的な要望に真摯に応えるPCX ELECTRICにより、Hondaは持続可能な未来に寄与するために、着実に歩みを進めていきたいと考えています。